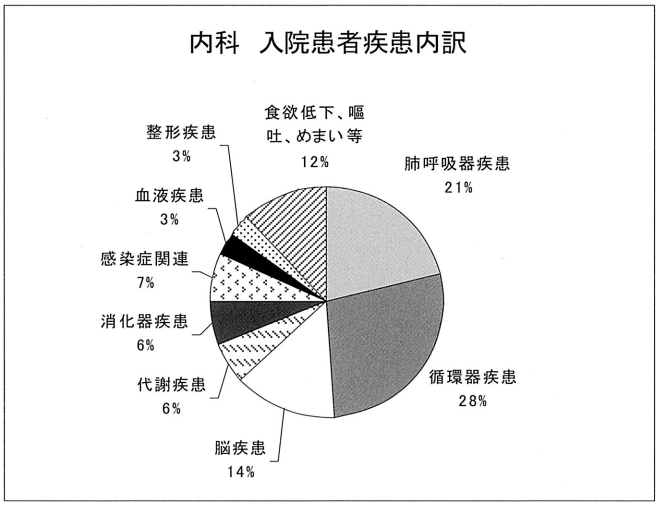
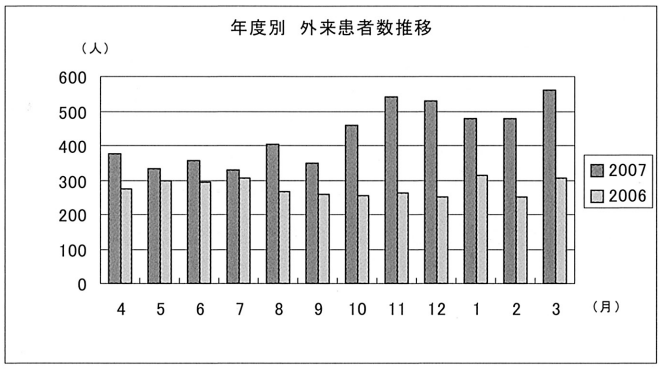
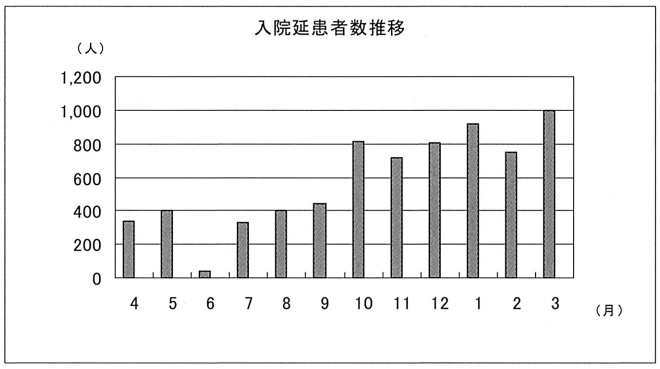
◆内　　科　　医　員　楠元孝明

2007年度内科スタッフは４月から９月までは楠元１名、10月以降は麻酔科との兼任で荒川医師、また済生会熊本病院からのローテーションで須古医師の計３名であった。但し庄野副院長、築村医師、熊本病院循環器科派遣医師（４月から８月まで）にも循環器、消化器疾患以外の内科領域も多数担当された。

外来は一般内科、初診担当を楠元（週２回）、須古医師（週１回）で行い、呼吸器疾患、糖尿病は熊本病院の専門医が担当した。また禁煙外来も４月より開始し、多数の患者が禁煙に成功した。一般外来以外に救急外来の対応も連日交代で行った。

入院患者受け持ちは平均10～20名程度。年間１人で約300名の担当となったが、その内、肺炎・気管支喘息等の呼吸器疾患が21％、心不全・虚血性心疾患・不整脈等の循環器疾患が28％、脳梗塞・脳出血等の脳疾患が14％とこれら３つで全体の約60％を占めた（その他糖尿病等の代謝疾患が６％、消化器疾患が６％、膠原病や不明熱、帯状疱疹等の感染症関連が７％、血液疾患が３％、整形疾患が３％、食欲低下・嘔吐・めまい等が12％）。約８割の患者が軽快し、自宅もしくは施設等へ退院となった。



2008年４月以降、内科スタッフは楠元、荒川医師の２名となる予定。救急外来及び入院患者への対応は2007年度と大きく変わりはないが、糖尿病の専門外来が2008年３月で終了となった為、外来枠を増やして対応していく。